

*A tribute to the memory of Prof. Yutaka Mizushima
Masahisa Kyogoku**

水島 裕先生と私

京 極 方 久*

「水島先生が急逝された!」という情報を炎症再生医学会事務局から受けたときは中々信じられませんでした。何処の水島さんかと読み返して「裕」というお名前を拝見して本当であることを確認した後は「どうして?」と。報道で急性心不全と伺って、何とか事前の対策が無かったものかと、同じような状態を事前に発見してもらってステントを入れた過去を持つ小生としては本当に残念でなりません。

私が先生を最初に意識したのは、1970年代はじめ、学会特にリウマチ学会だったと思いますが、小柄な先生が良く通る声で、静かに、しかし厳しい質問をされているのを拝見したころだと思います。「東大物療の水島 裕」を始めて知ったときです。

それ以後、先年亡くなった私の弟が、東大理学部化学教室出身で水島三一郎先生の孫弟子に当たることなどもあって、いろんなところでお会いする機会が増え、お話することも多くなりましたが、先生と本当にいろんなことを face to face でお話できるようになったのは大正製薬をスポンサーにして出来た「炎症研究会」に先生に薦められて加わらせていただいてからだと思います。塩川優一先生、東北大薬学部の鶴藤 丞先生、大正製薬学術部長の故会沢孝雄さんなどを交えてよく本音で議論をしました。この研究会がその後発展して「日本炎症学会」になるのですが、先生はこのような研究集団を立ち上げて、それを自ら先頭に立って活性化し、成熟させるのに卓抜した才能をお持ちでした。学会を立ち上げるときに、その病理方面の代表者として私を推薦していただいたのは本当に嬉しかったです。当時病理方面の炎症研究者には偉い先輩方が沢山居りましたが、その中から一番若輩の私を抜擢していただいたご厚誼は忘れません。

この学会の設立は医学界の賛同を得て急速な発展を遂げますが、10余年を経過して演題や会員数の増加傾向にやや翳りが見られ、活気が衰えたかな?と思われ、またアレルギー、リウマチなどの他の諸学会との差別化が少し問題になったころ、国の方針が再生医学医療に傾きつつあることをいち早く察知し、半ば強引にこれを炎症・再生医学会に転進させられたのも先生でした。私も含めて初めから炎症学会に関係してきた者たちの多くは、「木に竹をつなぐ様にならないことを祈る」なんて失礼なことを申し上げましたが、設立時の熱気が冷めるとジリ貧を迎えてしまう境界領域学会が多い中では先見の明であったと思います。最大の牽引車が居なくなってしまったこれから、どうか現学会幹部の皆さんが一致協力してこの学会を一層充実したものにしていきたいと思います。それが先生に対する最大の供養だと思います。

*東北大学名誉教授・日本炎症・再生医学会名誉会員

先生は洛陽の紙価を高めた「今日の治療薬」の不動の編集責任者として知らない人は居ない、臨床薬物治療の大家として衆目の一致するところですが、基礎の形態学の重要さもずっと評価していただいております。今一つの先生畢生の大仕事「リボ療法」、薬をリン脂質の球状体につめて炎症の現場に送り込もうという発想は、炎症の場の超微形態学を完全に理解していないと出てこない発想です。あの方法論を確立される直前に免疫電顕で撮った球状体の写真を見せて私の意見を求められ、“素晴らしい！”と申し上げたときの先生の嬉しそうなお顔は忘れられません。更に進んでナノチューブを利用することになったときにも「誰かやってくれるいい人居ないかな？」と仰っていたのを思い出します。

先生とのもう一つの接点は厚生省難病研究班員としての接点でした。パーチェット病班の班長であられたとき、この疾患の好中球の示す態度に注目されたお仕事は国際的にも高く評価されたものと伺っています。またリウマチ学会、リウマチ財団と最近までいろんな時や場所でお会いして、何時までも変わらぬ、恐るべき広範囲に互る（医学・薬学の研究、企業化、政治、音楽、スポーツ等々）飽くなき「好奇心」と、何でも何時の間にか“その道の一流”にまで到達してしまう「実行力」に、また何時の間にか相手を抱き込んでしまう不思議な「包容力」に感嘆していたものです。このように先生は、次々に独創的な発想を立て、それを実行に移し、しかも完成させてしまう稀に見る天才でした。

未だ70歳代前半で、お元気であれば先生のことです、未だ未だいろいろ出来たでしょうに本当に残念です！ しかし政治の世界では御令嬢の広子様が民主党代議士として御活躍ですし、学問の世界では東京医科歯科大教授の御令息昇氏のオートファジーの研究は世界をリードするものになることは間違いありません。先生、ご安心ください！

疾風の如く来たり、また去っていった先生の御冥福を心よりお祈りいたします。合掌。